

平成 24 年 8 月海洋観測結果(塩屋崎、富岡定線)

月 1 回の割合で調査船「こたか丸」にて実施している 3 定線の海洋観測ですが、このうち 8 月 20~21 日に 2 定線(塩屋崎:37° 00' N、富岡:37° 25' N)の海洋観測を実施しましたので、結果についてお知らせいたします。

1 水温、塩分の鉛直分布

水温のうち表層では塩屋崎で 20~27°C 台、富岡で 23~25°C 台が、100m 深では塩屋崎で 11~14°C 台、富岡では 10~11°C 台が分布していました。

塩分のうち表層では塩屋崎で 33.3~33.9°C 台、富岡で 33.3~34.1 台が、100m 深では 塩屋崎で 34.0~34.5 台、富岡では 33.9~34.0 台が分布していました。

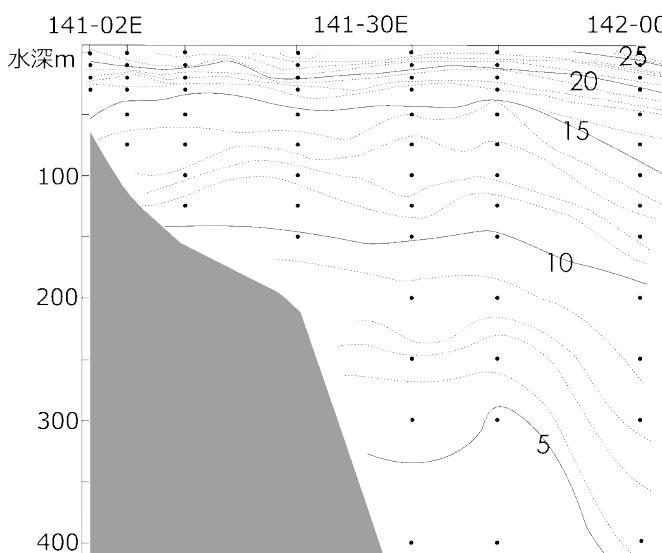


図 鉛直水温(塩屋崎:°C)

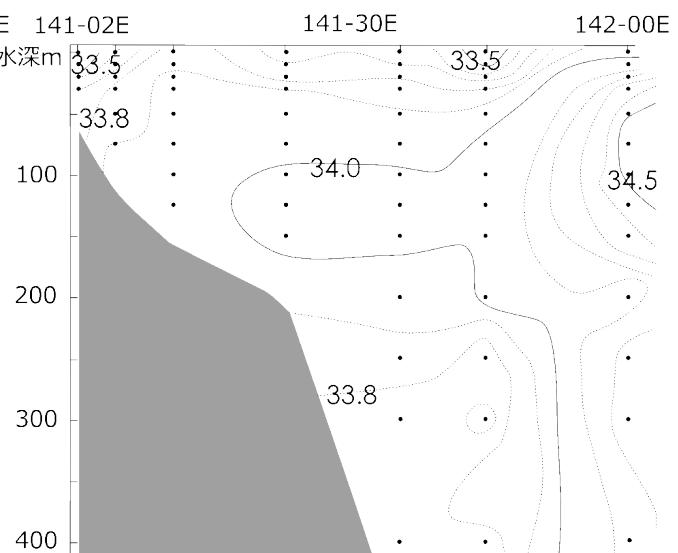


図 鉛直塩分(塩屋崎:PSU)

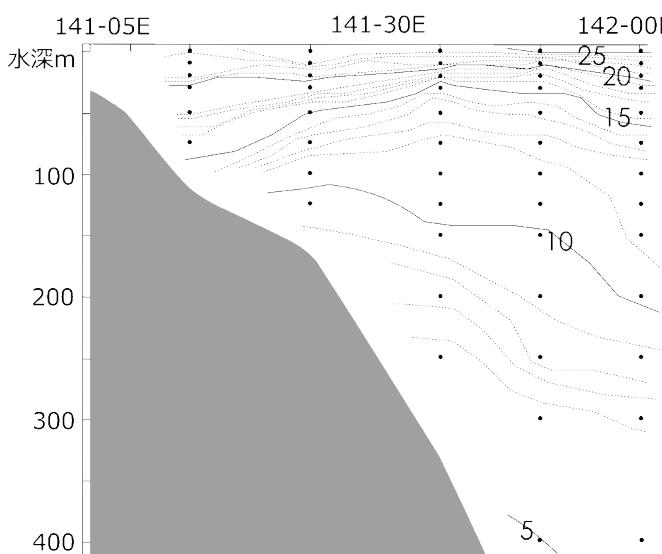


図 鉛直水温(富岡:°C)

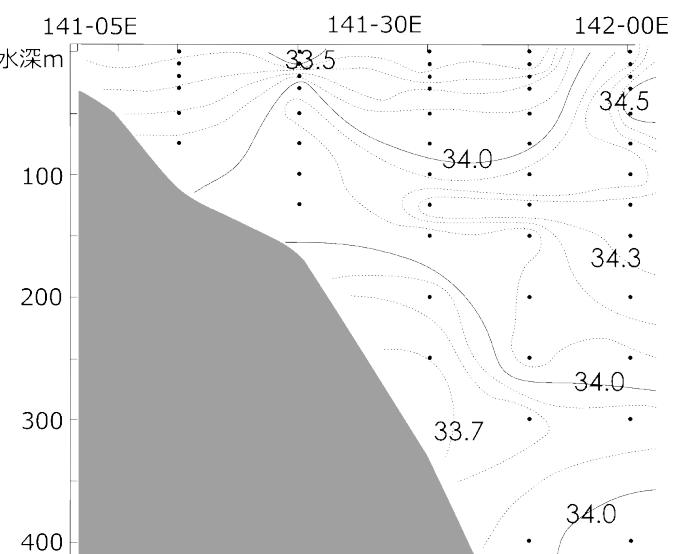


図 鉛直塩分(富岡:PSU)

2 水温の平年差

距岸 50 海里以内の水温の推移を表 1 に示しました。8 月については鵜ノ尾埼定線を除いて計算しています。表層は 2 月以降平年並み～やや高めで推移し、8 月は表層、100m 深とも平年よりやや高めとなっています。

表1 距岸50海里以内の水温(表層、100m深)

水深	年月	観測値平均(℃)	平年差(℃)	
表層	H24.1	11.02	-1.29	やや低め
	H24.2	8.73	-0.23	平年並み
	H24.3	9.05	-0.48	平年並み
	H24.4	9.69	-0.02	平年並み
	H24.5	14.23	1.89	やや高め
	H24.6	17.12	1.71	やや高め
	H24.7	19.02	0.32	平年並み
	H24.8	23.97	1.52	やや高め
100m深	H24.1	10.11	-1.10	やや低め
	H24.2	6.74	-1.62	やや低め
	H24.3	7.97	-0.35	平年並み
	H24.4	7.90	0.11	平年並み
	H24.5	8.38	0.49	平年並み
	H24.6	8.35	-0.19	平年並み
	H24.7	7.85	-1.62	やや低め
	H24.8	11.59	1.52	やや高め

平年差=観測値-平年値(S56-H22の平均値)

表2 平年差の表現基準

平年並み	0 ~±0.9℃
やや高め(低め)	±1.0 ~2.4℃
高め(低め)	±2.5 ~3.9℃
極めて高め(低め)	±4.0℃~

魚介類の餌料生物等の放射性セシウム濃度測定結果について (2012.8.16公表分まで)

東京電力福島第一原子力発電所事故を受け、福島県水産試験場では調査協力機関とともに、魚介類の餌料生物等の放射性セシウム濃度を測定しています。平成24年8月16日に、それまでの測定結果と併せ、水産試験場ホームページに公表しました。

<http://wwwcms.pref.fukushima.jp/download/1/20120816bait.pdf>

調査機関：福島県水産試験場

調査協力機関：国立大学法人福井大学、国立大学法人東京海洋大学、独立行政法人放射線医学総合研究所

～測定結果の概要～

○これまでの調査では、餌料生物等の放射性セシウムの濃度は、明瞭ではないものの、多くの餌料生物で時間経過とともに減少している傾向です。

○時間経過に伴う減少傾向が比較的明瞭にみられるのは、プランクトン類、アミ類、エビジャコ類(エビ類)、ブンブク類(棘皮動物)のほか、前回公表時に高めの値であった沖合(水深100m)の多毛類です。

○沿岸(水深10~22m)のサメハダヘイケガニや、ツガルウニ(水深50m以深に分布するウニ類)などでは、明瞭な低下傾向は確認できませんでした。

○今後も、これらの餌料生物の調査を継続していくとともに、採集海域の違いや、捕食者である魚介類の放射性セシウム濃度との関係などに注目しながら解析を進めてまいります。

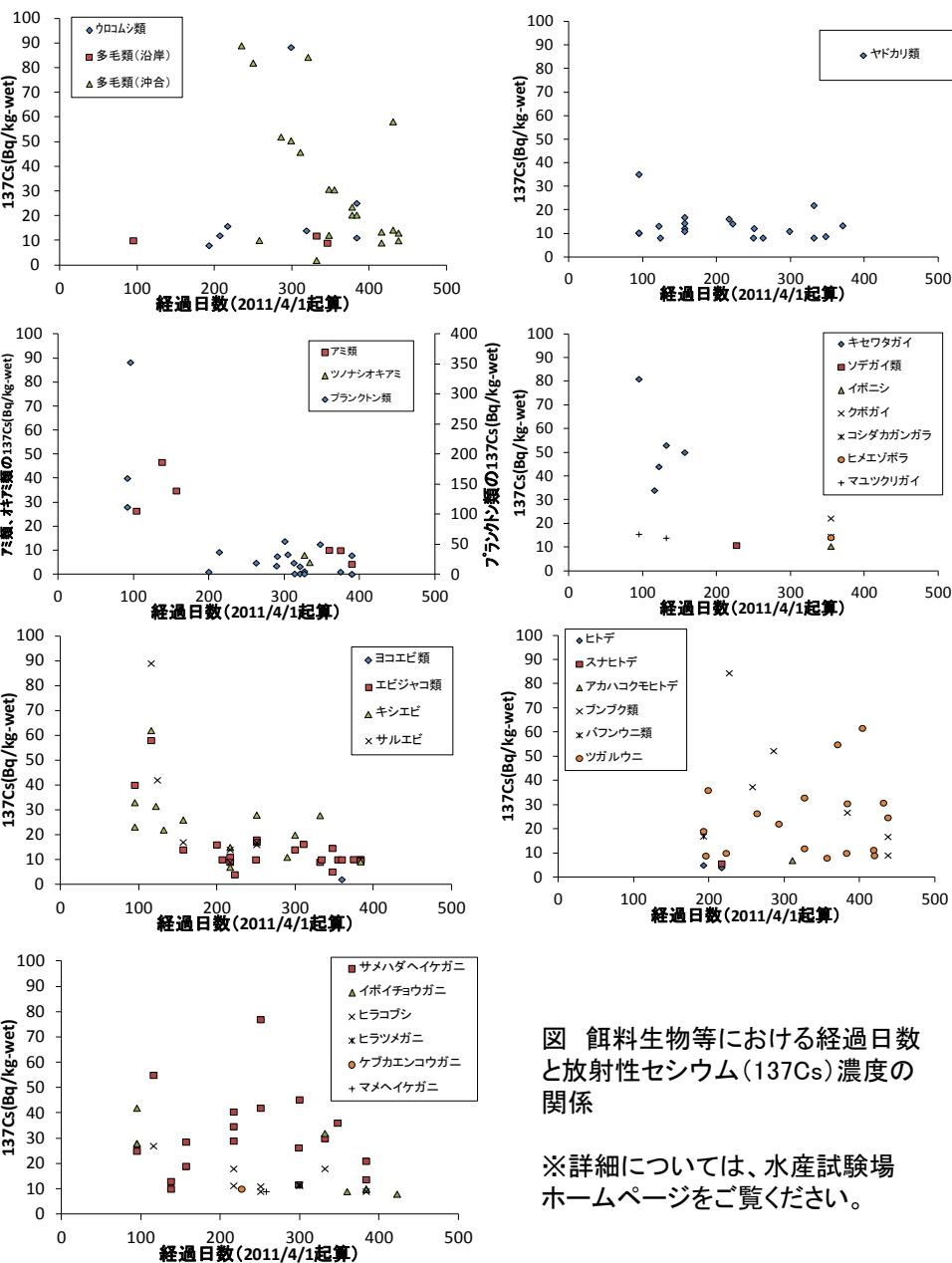


図 餌料生物等における経過日数と放射性セシウム(137Cs)濃度の関係

※詳細については、水産試験場ホームページをご覧ください。

平成 24 年 9 月海洋観測結果(塩屋崎、富岡定線)

月 1 回の割合で調査船「こたか丸」にて実施している 3 定線の海洋観測ですが、このうち 9 月 4~5 日に 2 定線(塩屋崎:37° 00' N、富岡:37° 25' N)の海洋観測を実施しましたので、結果についてお知らせいたします。

1 水温、塩分の鉛直分布

水温のうち表層では塩屋崎で 22~28°C 台、富岡で 25~26°C 台が、100m 深では塩屋崎で 14~15°C 台、富岡では 10~11°C 台が分布していました。

塩分のうち表層(1m 深)では塩屋崎で 32.2~33.8 台、富岡で 32.2~33.6 台が、100m 深では塩屋崎で 34.3~34.5 台、富岡では 34.0~34.1 台が分布していました。

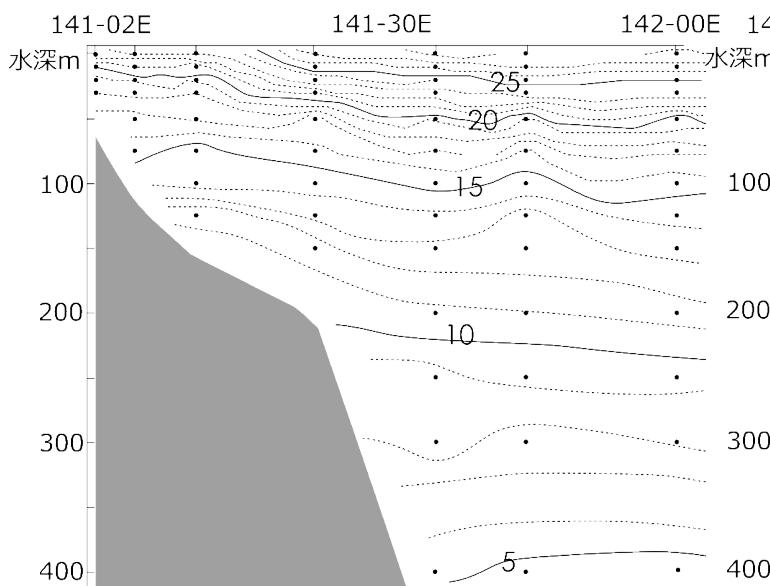


図 鉛直水温(塩屋崎:°C)

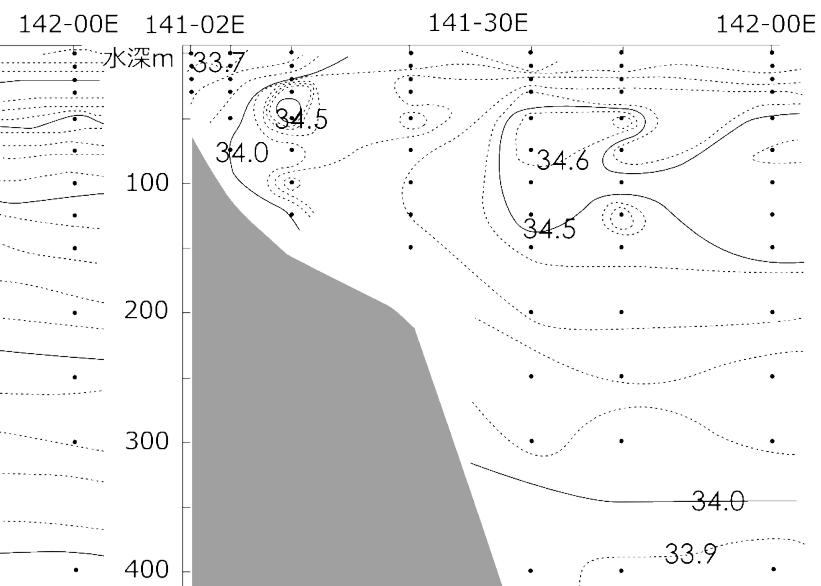


図 鉛直塩分(塩屋崎:PSU)

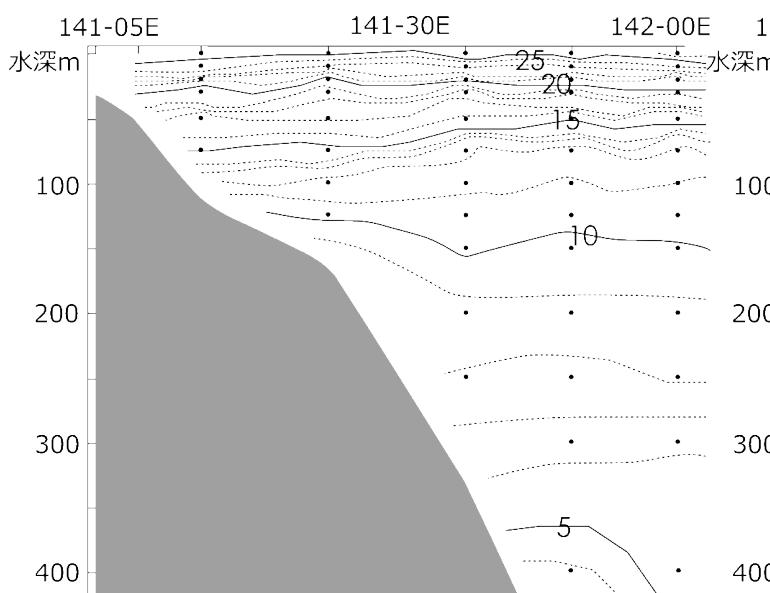


図 鉛直水温(富岡:°C)

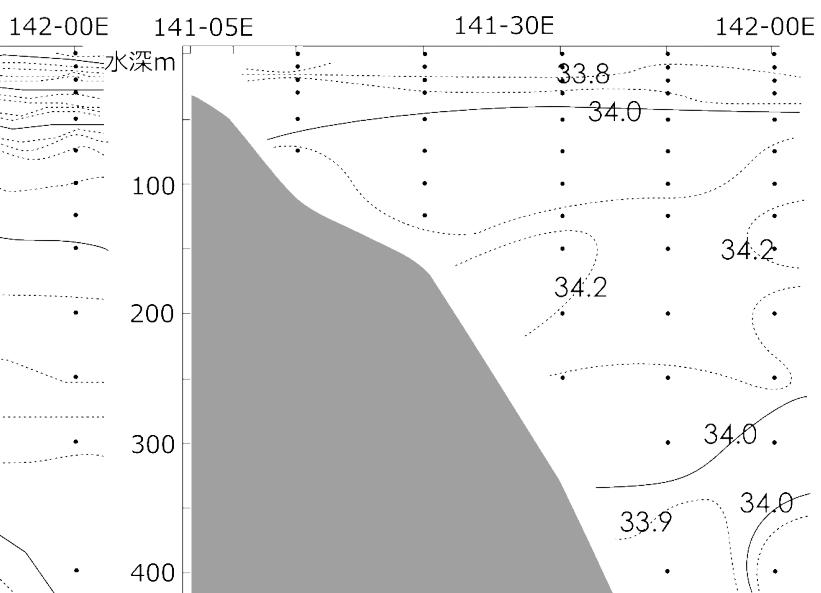


図 鉛直塩分(富岡:PSU)

2 水温の平年差

距岸 50 海里以内の水温の推移を表 1 に示しました。表層は塩屋崎、富岡とも高め、100m 深では塩屋崎で高め、富岡で平年並みとなっています。

表1 距岸50海里以内の水温(℃)

水深	定線	観測値平均	前年差	平年差	
表層	塩屋崎	25.83	-	2.75	高め
	富岡	25.76	2.73	2.98	高め
	鵜ノ尾崎	-	-	-	-
	全体	25.80	2.73	2.85	高め
100m深	塩屋崎	14.87	-	3.40	高め
	富岡	11.05	1.93	-0.37	平年並み
	鵜ノ尾崎	-	-	-	-
	全体	13.17	1.93	1.72	やや高め
平年差=観測値-平年値(S56-H22の平均値)					

表2 階級区分毎の出現率・平年水温との差

階級区分	出現率(%)	平年水温との差(℃)
極めて高め	2.5	+4.0~
高め	7.5	+2.5~+3.9
やや高め	20.0	+1.0~+2.4
平年並み	40.0	+0.9~-0.9
やや低め	20.0	-1.0~-2.4
低め	7.5	-2.5~-3.9
極めて低め	2.5	-4.0

平年差における「高め」ですが、出現率は 7.5% です(表 2)。これはおおまかにいうと、100 回観測を実施した際、7.5 回の割合で観測される程度の数値であることを示します。

(海洋漁業部)

平成 24 年度 第 1 回 北西太平洋サンマ中短期漁況予報(概略)

9月 10 日に(社)漁業情報サービスセンターよりサンマ棒受網漁業についての予報が発表されましたので、概略を掲載いたします。

予測期間:2012 年 9 月中旬から 10 月下旬まで 対象海域:道東海域、三陸海域

1 今後の見通し

1) 道東海域

(1) 来遊量

9 月中旬は低位水準であるが、来遊量は徐々に増加し、9 月下旬～10 月中旬は中位水準となる。10 月中旬から減少を始め、10 月下旬は低位水準となる。

(2) 漁場

9 月中旬の主漁場は、落石～厚岸沖となる。9 月下旬には釧路沖、10 月上旬には襟裳岬沖にも断続的に漁場が形成される。

2) 三陸海域

(1) 来遊量

10 月上旬は、断続的ではあるが来遊がある。来遊量は増加するが、10 月中旬～下旬は低位水準である。

(2) 漁場

10 月上旬には、三陸北部に一時的に漁場が形成される可能性がある。10 月中旬～下旬は三陸北部に漁場が形成されるが、持続しない。

海 域		9月中旬	9月下旬	10月上旬	10月中旬	10月下旬
道東海域	来遊量	→	→	→	→	→
	動向	低位增加	中位增加	中位水準	中位減少	低位減少
	漁 場	落石～厚岸沖	落石～釧路沖	落石～襟裳岬沖	落石～襟裳岬沖	落石～襟裳岬沖
三陸海域	来遊量			→	→	→
	動向			断続的	低位增加	低位增加
	漁 場			北部	北部	北部

2 漁況の経過概要(8 月下旬:道東海域)

(1) 来遊量

資源量指数から判断した道東海域における来遊量の水準は、前年並みの低位水準であった。道東海域よりも北東側の花咲港東北東～東沖における来遊量の水準は、ほぼ前年並みであったが、漁場の範囲は昨年よりも広かった。

日別 CPUE(1網当たりの漁獲量)から判断すると、来遊量は徐々に増加した。

(2) 漁場

花咲港東沖が主漁場であり、道東海域では漁場はできなかった。なお、道東海域よりも北東側の、花咲港東北東～東沖(9～17°C)では、連日多くの船が操業。漁場は、徐々に花咲港に近づいてきた。

(3) 魚体

道東海域よりも北東側の、花咲港東北東～東沖では、前年よりも中型魚以下の混じり具合が多く、中型以下の魚が4～9割程度混ざっている場合が多くなった。期後半になると、体長31～32cmモードの大型魚主体の群れが出てきた。大型魚の体重は、170～180g台主体であった。

サンマ水揚げ情報(途中経過)

漁業情報サービスセンターの「サンマ漁海況情報」に掲載されたデータを用いて、昨年と今年の水揚げ状況を比べてみました。

漁期開始から9/12までの今年の水揚げ量は36千トンと昨年の29千トンを上回っていますが、大は13千トンと昨年の18千トンを下回っています。今年は昨年と比べ、中小の割合が高くなっています(図1)。

平均単価も8月下旬以降、昨年と比べおおむね下回っています(図2)。

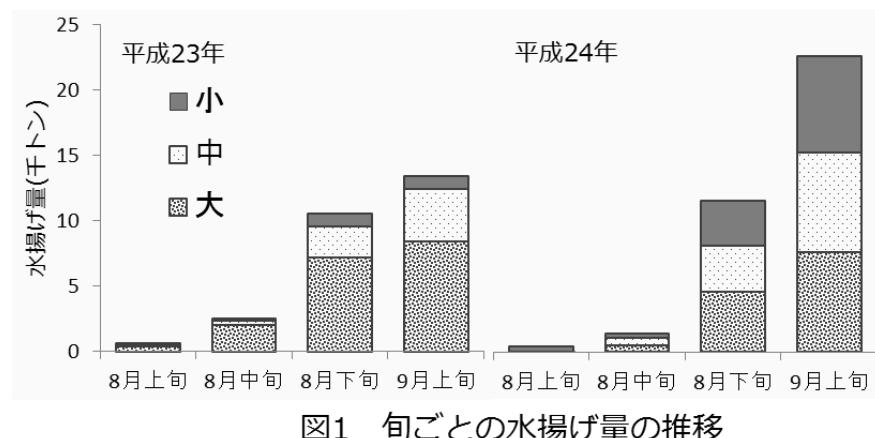


図1 旬ごとの水揚げ量の推移

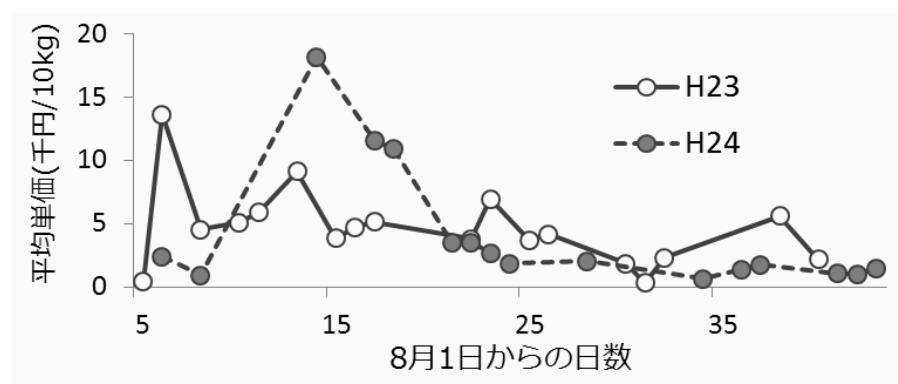


図2 8月からの平均単価の推移

平成 24 年 9 月海洋観測結果

調査船「こたか丸」で月 1 回の割合で実施している 3 定線(塩屋崎、富岡、鵜ノ尾崎: 37-00~37-50N)の海洋観測のうち、9 月 10~11 日に実施した鵜ノ尾崎定線(37-50N)の結果についてお知らせいたします。

1 水温の鉛直分布(鵜ノ尾崎)

表層水温は 23.0°C(141-02E)~26.0°C(142-00E)、表層付近(10m 深)塩分は 33.26(141-12E)~33.86(142-00E)となっていました。

100m 深水温は 12.1°C(142-00E)~15.3°C(141-36E)、100m 深塩分は 34.12(141-36E)~34.32(142-00E)となっていました(塩屋崎、富岡定線については先週号に掲載済みです)。

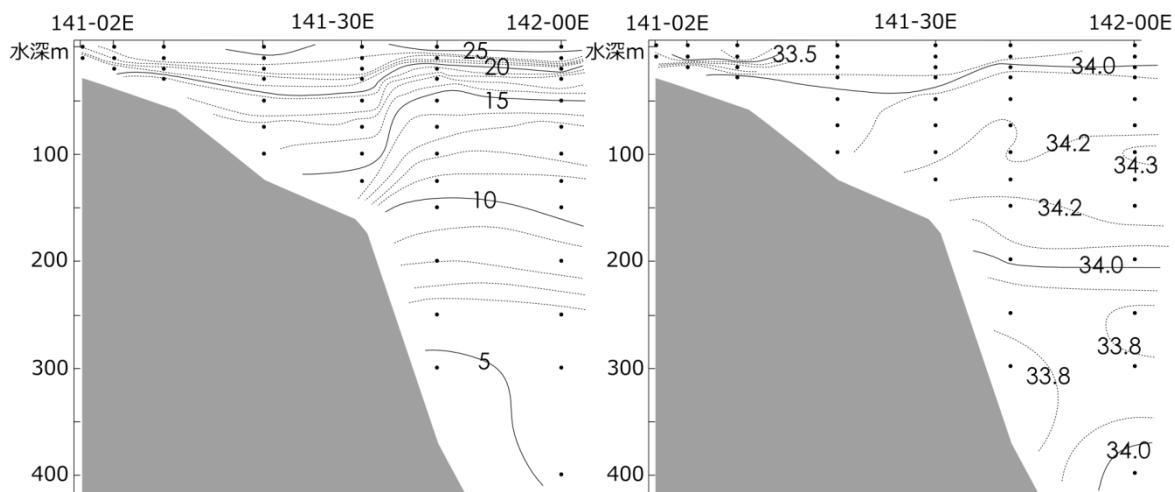


図 鉛直水温(鵜ノ尾崎: °C)

図 鉛直塩分(鵜ノ尾崎: PSU)

2 定線ごとの水温

距岸 50 海里以内の定線ごとの水温を表 1 に示しました。各定線の表層の平均水温は 24~25°C 台、100m 深は 11~14°C 台でした。表層はやや高め~高め、100m 深は平年並み~高めでした。

表1 距岸50海里以内の水温(°C)

水深	定線	観測値平均	前年差	平年差	
表層	塩屋崎	25.83	-	2.75	高め
	富岡	25.76	2.73	2.98	高め
	鵜ノ尾崎	24.86	1.53	2.25	やや高め
	全体	25.45	1.96	2.63	高め
100m 深	塩屋崎	14.87	-	3.40	高め
	富岡	11.05	1.93	-0.37	平年並み
	鵜ノ尾崎	13.15	3.30	1.42	やや高め
	全体	13.17	2.52	1.65	やや高め

平年差=観測値-平年値(S56-H22の平均値)

表2 平年差の表現基準

平年並み	0 ~±0.9°C
やや高め(低め)	±1.0 ~2.4°C
高め(低め)	±2.5 ~3.9°C
極めて高め(低め)	±4.0°C~

3 水温の水平分布

表層水温、表層付近(10m 深)塩分、100m 深の水温、塩分の分布は下図のとおりです。表層水温は 23~28°C 台、10m 深塩分は 33.2~34.0 台となっていました。

100m 深の水温は 10~15°C 台、塩分は 34.0~34.5 台が分布していました。

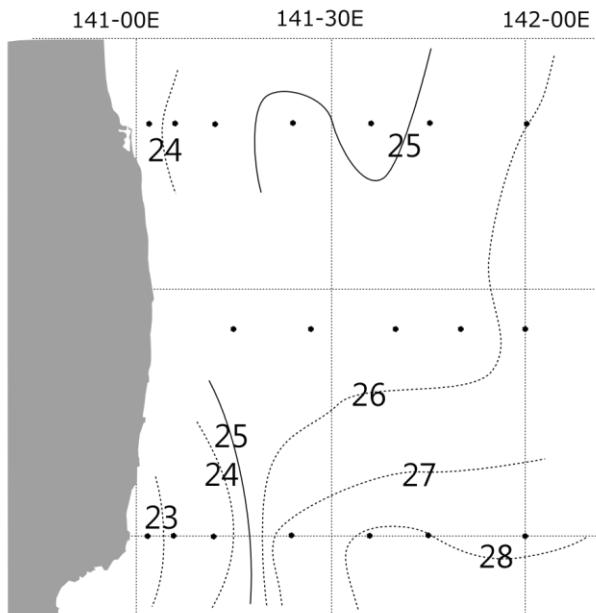


図 水平水温(表層:°C)

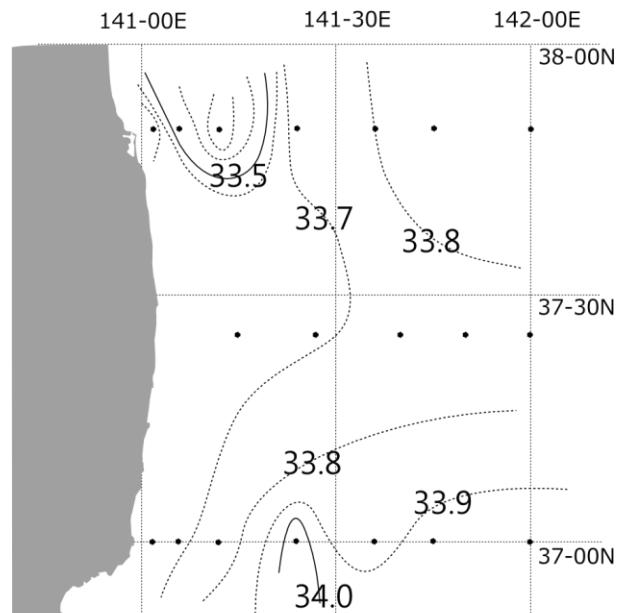


図 水平塩分(10m深:PSU)

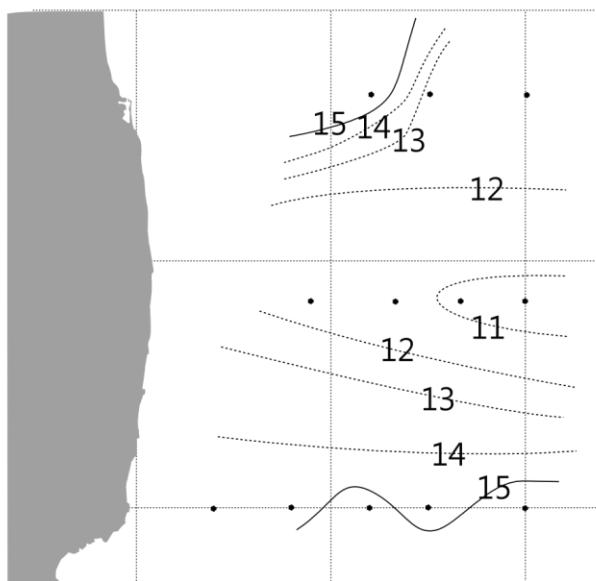


図 水平水温(100m深:°C)

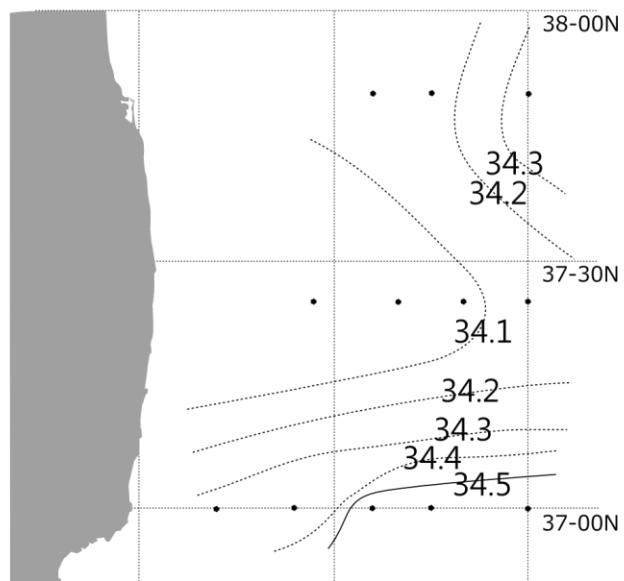


図 水平塩分(100m深:PSU)

福島県沿岸における海底土壤のモニタリング調査について

福島県では、環境放射線モニタリングとして、本県沿岸の42の定点で海底土壤の放射性セシウムの濃度を測定しています（図1）。

なお、結果の詳細は水産試験場HPに掲載しています。
<http://www.pref.fukushima.jp/suisan-shiken/index.htm>

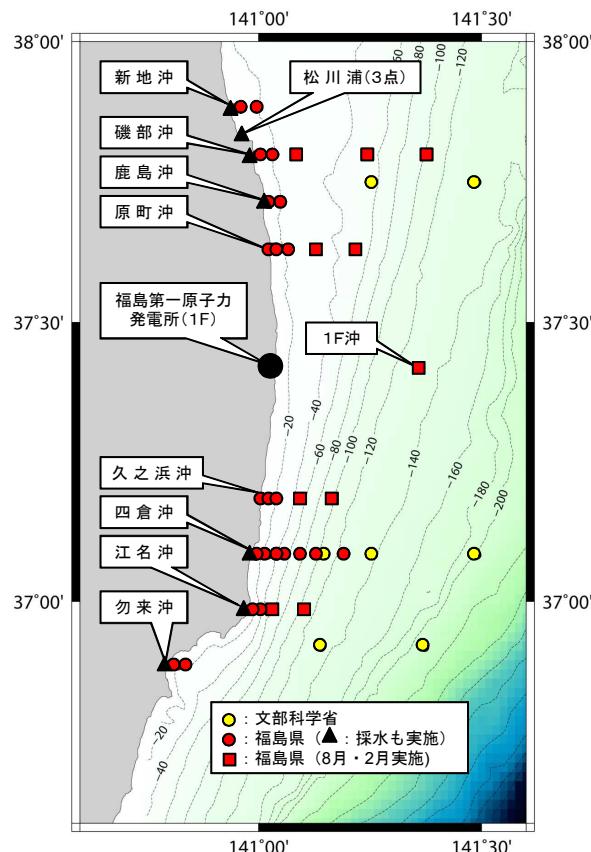


図1 海底土壤のモニタリング調査定点

いわき市四倉沖定線における放射性セシウムの経時変化（表1）

文部科学省及び福島県が定線調査を実施しているいわき市四倉沖の放射性セシウムの経時変化です。

数値をみると、放射性セシウムは時間経過とともに、当初濃度の高かった沿岸から沖合に拡散して低下していることが推測されます。

海底土壤のモニタリングは今後も継続し、放射性セシウムの分布状況を把握していきます。

表1 四倉沖定線の放射性セシウム濃度（セシウム 134,137）

放射性セシウムの合計(Bq/kg・乾土)

距岸距離 水深	約0.5km 7m	約1.2km 10m	約2.6km 20m	約3.7km 30m	約6.5km 50m	約10km 75m	約13.6km 100m	約14km ※107m	約20.2km 125m	約25km ※141m	約45km ※213m
5月上旬											49
5月下旬	1,503	6,003	9,271								107
6月上旬											75
6月下旬											162
7月中旬	815	1,527	2,386	462	663	347	183		ND	74	
7月下旬	124	1,586	905							73	
8月	625	933	992	1,227	1,734	851	235			306	
9月	1,142	687	943	8,189	679	470	272	370	136	95	69
10月	88	804	664	2,916	1,593	395	647	430	3,571	181	50
11月	213	465	785	794	523	486	89			72	
12月	558	441	562	820	1,123	268	131	360	136	168	63
1月	246	554	297	518	1,208	278	307			79	
2月	128	350	257	644	977	560	918	330	184	133	76
3月	372	273	170	684	927	491	638			200	
4月	304	202	212	234	620	493	177			170	
5月	268	330	225	1,561	937	487	410		150	233	118
6月	164	242	174	270	1,179	495	135			127	
7月	314	190	120	296	575	542	299			137	
8月	575	153	114	433	902	547	130			261	

※ 斜線部は文部科学省による調査

(漁場環境部)

サンマ水揚げ情報(途中経過、10月4日まで)

社団法人漁業情報サービスセンターの「サンマ漁海況情報」に掲載されたデータを用いて、昨年と今年の水揚げ状況を比べました。

漁期開始から10/4までの今年の水揚げ量は85千トンと昨年の69千トンを上回っていますが、大は24千トンと昨年の35千トンを下回っています。今年は昨年と比べ、中小の割合が高くなっています(図1)。

漁期開始から9月下旬にかけて水揚げ量が増加していく傾向は昨年と変わらず、隻数も同様に推移しています(図1、2)。9月からの平均単価は1,000～1,500円/10kg程度を推移していて、昨年と比べおおむね下回っています(図2)。

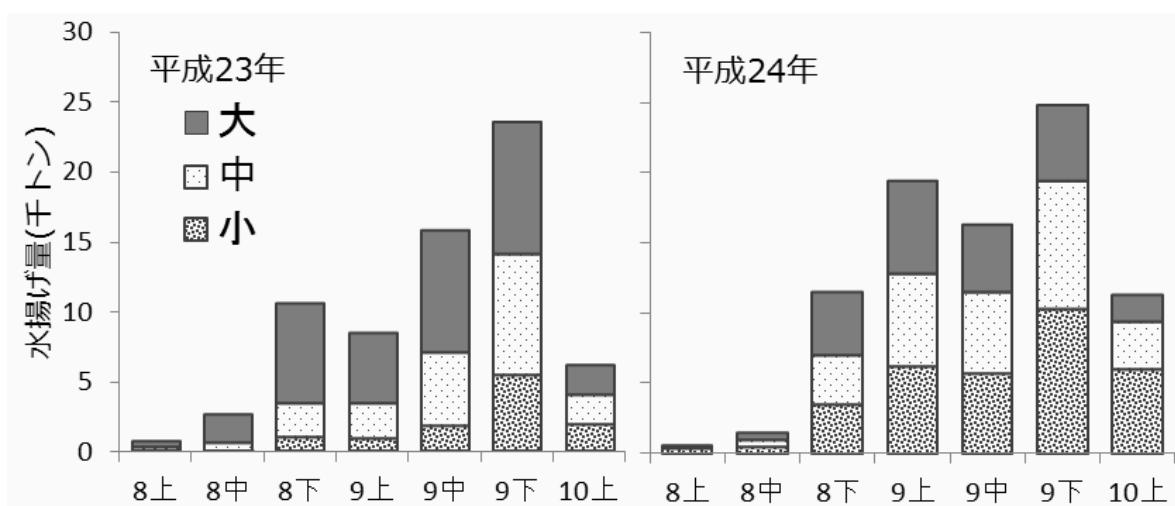


図1 旬ごとの水揚げ量の推移(10月4日まで)

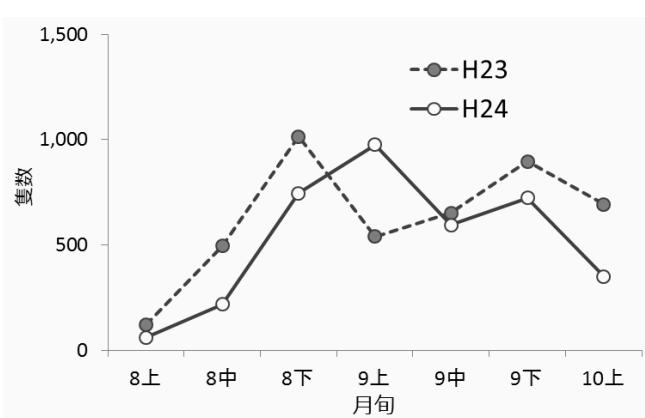


図2 旬ごとの隻数の推移(10月4日まで)

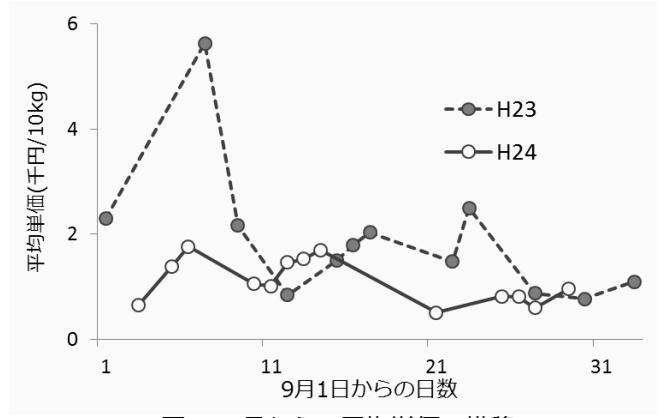


図3 9月からの平均単価の推移

平成 24 年度第 3 回北西太平洋サンマ中短期漁況予報(抜粋)

9月 28 日に社団法人漁業情報サービスセンターよりサンマ棒受網漁業についての予報が発表されましたので、概略を掲載いたします。

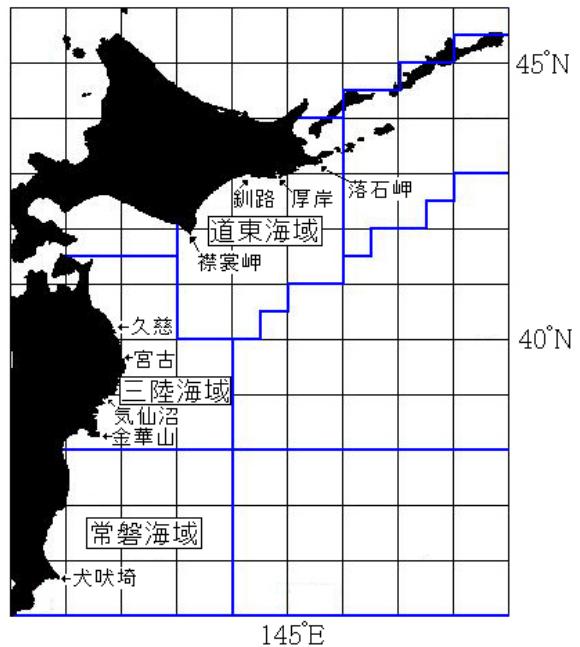
「今後の見通し(2012 年 10 月上旬～11 月中旬)のポイント

来遊量

・道東海域では、10 月上旬は中位水準となる。10 月中旬から徐々に減少する。

・三陸海域では、10 月中旬に一時的ではあるが来遊がある。10 月下旬まで低位水準で推移するが、11 月上旬は中位水準となる。

・常磐海域では、11 月上旬に一時的ではあるが来遊がある。11 月中旬まで低位水準で推移する。」



→北海道周辺海域(北緯 40~45 度、東経 140~150 度)の 9 月中旬の海面水温は、1985 年以降の全期間を通じた記録として最も高い旬平均水温となっています(気象庁発表)。

こうしたことでもあって魚群の南下遅れていて、本県での水揚げも遅れる見込みです。

海上保安庁より感謝状をいただきました

当場の長年にわたる海洋観測データの計測、提供に対し、9 月 12 日の「水路記念日」にあたり、海上保安庁長官より感謝状及び表彰楯をいただきました。

これもひとえに日ごろより当場の業務を支えてくださいました皆様のおかげです。今後ともこれまで以上に、当場の試験研究に御支援御協力くださいますようお願い申し上げます。

(海洋漁業部)

小名浜水揚げサンマの測定結果(10/11)

10/11 に小名浜底曳漁協でサンマの水揚げがありました(121t、平均単価 104 円/kg、120~95 円/kg)。

当該漁船への聞き取りの結果、主要な漁場は 42-40N、145-00E、表面水温は 15°C のことでした。

魚体測定の結果、肉体長(吻の部分～尻びれの肉体部分)の平均は 29.3cm(20.1~32.0cm: 図 1)、体重の平均は 118.5g(36.1~173.2g)で、大、中、小比は 57:38:5 でした。

肉体長と体重の関係は図 2 の通りです。

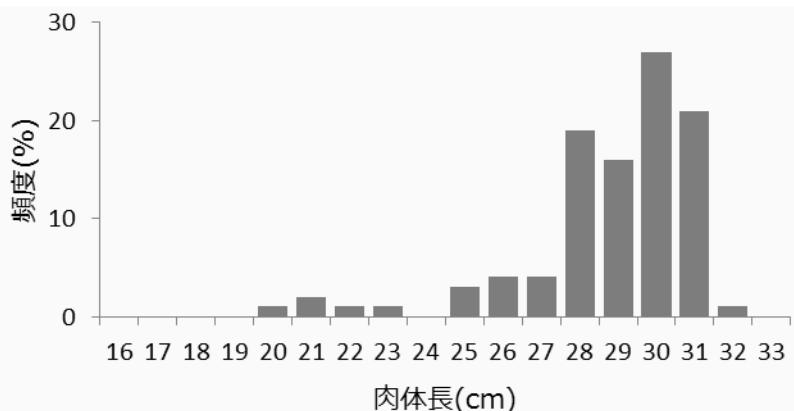


図1 サンマ肉体長組成(10/11水揚げ N=100)

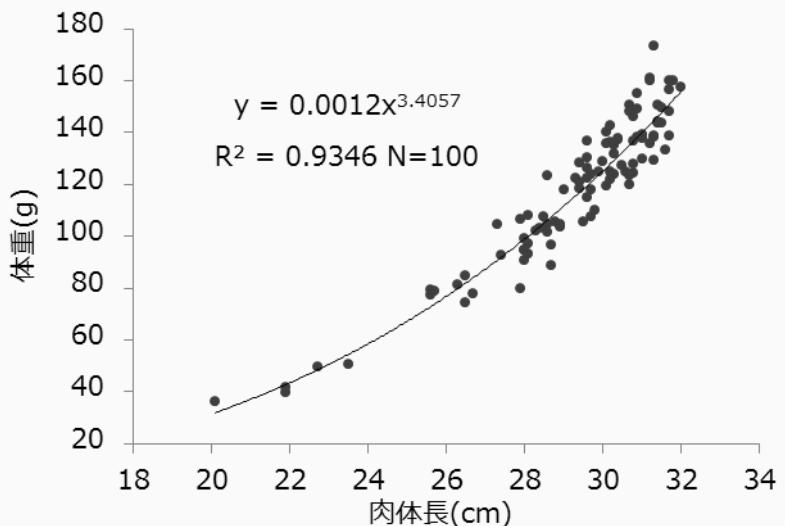


図2 サンマの肉体長-体重関係(10/11水揚げ)

平成 24 年度第 4 回北西太平洋サンマ中短期漁況予報(抜粋)

10月9日に社団法人漁業情報サービスセンターよりサンマ棒受網漁業についての予報が発表されましたので、概略を掲載いたします。

今後の見通し(2012年10月中旬～11月下旬)のポイント
来遊量

- ・道東海域では、来遊量は徐々に減少し、10月中旬は中位水準であるが、10月下旬～11月上旬は低位水準となる。
- ・三陸海域では、来遊量は徐々に増加し、11月上旬は中位水準となる。11月下旬から減少する。
- ・常磐海域では、11月上旬に一時的ではあるが来遊がある。11月下旬は中位水準となる。

海水温平年差の推移

気象庁から、北海道周辺海域において9月中旬に海面水温(旬平均)が過去最高を記録し、旬ごとにおいても9月上、中旬は過去最高だったとの発表がありました(9/27)。

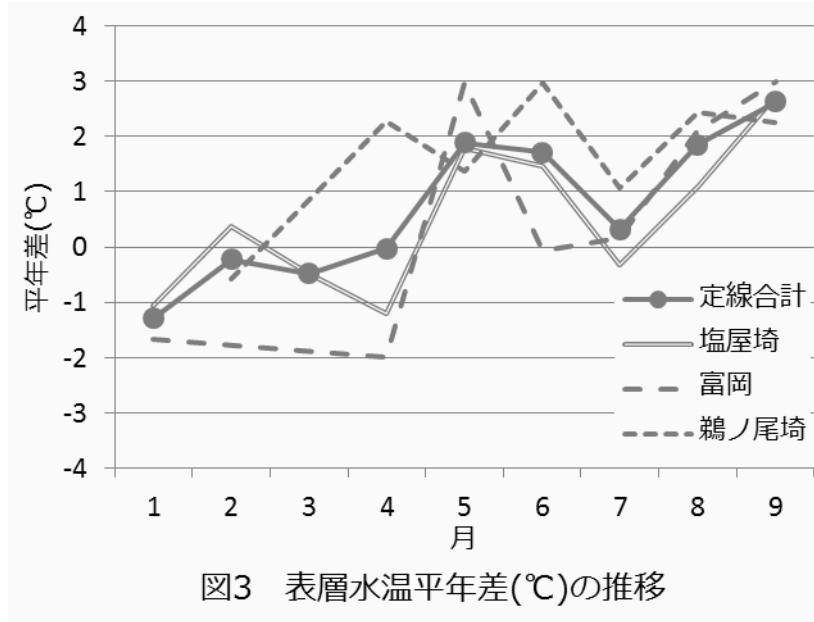


図3 表層水温平年差(°C)の推移

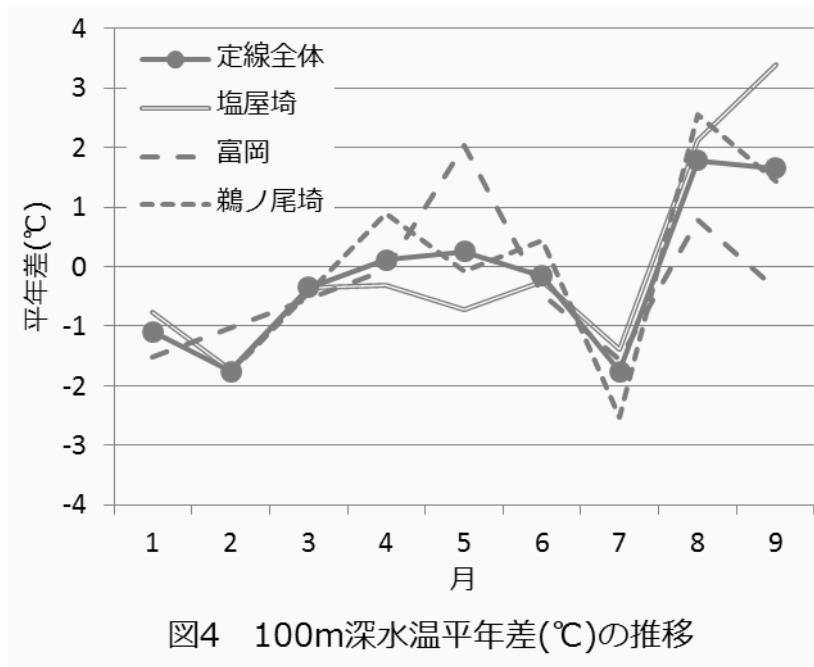


図4 100m深水温平年差(°C)の推移

そこで、当県での海面水温平年差についてまとめました。表層では8、9月で各定線(塩屋崎、富岡、鵜ノ尾崎)とも平年より「やや高め」～「高め」で推移していました。8、9月の100m深では富岡が「平年並み」でしたが、塩屋崎、鵜ノ尾崎は「やや高め」～「高め」で推移していました。

しかし、いずれも経年変動の範囲であり、特異的なものではないと考えられます。

平成 24 年度 第 5 回北西太平洋サンマ中短期漁況予報 (抜粋)

10 月 19 日に社団法人漁業情報サービスセンターよりサンマ棒受網漁業についての予報が発表されましたので、概略を掲載いたします。

1 今後の見通し

予測期間:2012 年 10 月下旬から 12 月上旬までの旬別

対象海域:道東海域、三陸海域、常磐海域

対象漁業:さんま棒受網漁業

対象魚群:南下回遊群

1) 道東海域

(1) 来遊量

来遊量は減少し、10 月下旬～11 月上旬は低位水準となる。11 月中旬は断続的となり、終漁となる。

(2) 漁場

10 月下旬の主漁場は、厚岸～襟裳岬沖となる。11 月上旬になると厚岸沖の漁場が消滅し、11 月上旬は釧路～襟裳岬沖に、11 月中旬は襟裳岬沖に漁場が残る。

2) 三陸海域

(1) 来遊量

来遊量はゆるやかに増加し、10 月下旬は低位水準であるが、11 月上旬～下旬は中位水準となる。11 月下旬から来遊量は減少し、12 月上旬は低位水準となる。

(2) 漁場

10 月下旬の主漁場は、三陸北部となる。11 月上旬になると漁場が三陸南部まで広がる。12 月上旬になると三陸北部の漁場が消滅し、三陸南部に漁場が残る。

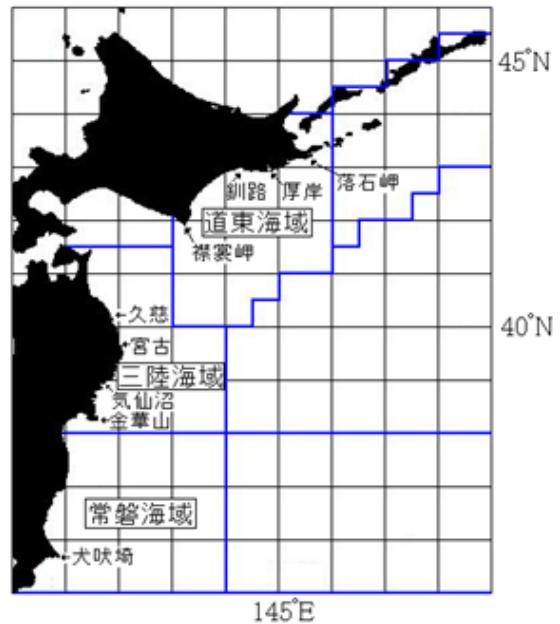
3) 常磐海域

(1) 来遊量

11 月上旬は、一時的ではあるが来遊がある。来遊量は増加し、11 月中旬は低位水準であるが、11 月下旬は中位水準となる。12 月上旬から来遊量は減少する。

(2) 漁場

11 月上旬は、常磐北部に一時的に漁場が形成される。11 月中旬になると、



漁場は常磐南部まで広がる。

2 予測の概要

海 域		10月下旬	11月上旬	11月中旬	11月下旬	12月上旬
道東海域	来遊量	→	→	→		
	動向	低位減少	低位減少	断続的		
	漁 場	厚岸～襟裳岬沖	釧路～襟裳岬沖	襟裳岬沖		
三陸海域	来遊量	→	→	→	→	→
	動向	低位増加	中位増加	中位水準	中位減少	低位減少
	漁 場	北部	北部～南部	北部～南部	北部～南部	南部
常磐海域	来遊量		→	→	→	→
	動向		一時的	低位増加	中位増加	中位減少
	漁 場		北部	北部～南部	北部～南部	北部～南部

3 漁況の経過概要(10月上旬)

1) 道東海域

(1) 来遊量

資源量指数から判断した道東海域における来遊量の水準は、前旬を上回り、前年並の中位水準であった。日別 CPUE(1網当たりの漁獲量)から判断すると、来遊量は期半ばにかけて徐々に増加したが、期後半にやや減少した。

(2) 漁場

主漁場は、落石～釧路沖と襟裳岬沖であった。

落石南南東～釧路南沖の 20～30 海里付近(12～17°C)では、連日大型船多数と小型船多数操業。大型船で最高 100 トン以上、平均 75 トン程度漁獲した。

襟裳岬東 40 海里付近(19°C)では、2 日夜に大型船が数隻操業。数トン～60 トン弱、平均 20 トン程度漁獲した。

襟裳岬南東～東南東沖の 40～60 海里付近(18～20°C)では、5 日夜以降、連日大型船が数隻～20 隻程度操業し、最高 100 トン以上、平均 60 トン程度漁獲した。

(3) 魚体

各漁場ともに体長 30～31cm モードの大型魚と 26～27cm モードの中型魚主体。日や場所によって、中型魚以下の混じり具合に違いがある。大型魚の体重は、140g 台主体で、さらに痩せてきた。

福島県沖における魚介類の放射能検査結果 - 平成 24 年 10 月 26 日現在 -

放射性セシウムの最大値による分類(直近約3ヶ月)

放射性セシウム134、137の合計値 単位:ベクレル/kg 平成24年7月1日～平成24年10月22日に採取したものの結果													
分類	魚種	最大	最小	平均	個数	100超	分類	魚種	最大	最小	平均	個数	100超
魚類	シロメバル	1,700	10	381	32	25	魚類	メイタガレイ	49	19	29	5	
	イシガレイ	1,200	ND	166	30	12		マトウダイ	46	ND	14	33	
	コモンカスベ	850	32	221	48	31		アブツノザメ	45	ND	24	3	
	ハバチガレイ(ナメタガレイ)	780	ND	88	73	15		タチウオ	44	44	44	1	
	ヒラメ	690	ND	75	96	26		チダイ	44	ND	10	18	
	アイナメ	670	ND	143	80	34		カナガシラ	40	ND	16	39	
	キツネメバル	610	ND	222	11	9		スケトウダラ	38	ND	17	8	
	ムシガレイ	580	ND	50	33	3		ユメカサゴ	34	ND	3	31	
	ウスマメバル	560	20	182	9	4		ソウハチ	33	ND	8	10	
	マゴチ	510	11	130	13	4		サメガレイ	32	ND	3	16	
	ムラサイ	510	79	202	13	9		アコウダイ	28	14	21	2	
	マコガレイ	490	ND	71	60	13		ミギガレイ(ニクモチ)	27	ND	2	57	
	クロソイ	440	ND	137	8	4		ナガレメイタガレイ	24	ND	8	7	
	マアナゴ	320	ND	48	48	7		イシダイ	22	12	17	2	
	エゾイソアイナメ(ドンコ)	230	ND	33	41	1		ウマヅラハギ	11	11	11	1	
	サフロウ	210	ND	70	3	1		マフグ	10	ND	2	7	
	ケムシカジカ	180	ND	40	27	3		アカガレイ	9	ND	3	8	
	ショウサイフグ	180	ND	42	13	1		オメエソ(ヒカリ)	8	ND	1	27	
	ホシザメ	180	38	86	5	1		コモンフグ	8	7	8	2	
	アカシタビラメ	170	ND	58	5	1		セトヌメリ	8	ND	4	2	
	マダラ	170	ND	35	36	3		ブリ	8	ND	1	16	
	マガレイ	150	ND	24	48	1		シラス	7	ND	0	74	
	スズキ	140	20	81	12	2		アカムツ	ND			5	
	マツカワ	140	ND	39	5	1		アブラガレイ	ND			1	
	ニベ	120	15	56	34	1		イシカワシラウオ	ND			2	
	ウミタナゴ	110	15	48	6	1		ウルメイワシ	ND			2	
	クロダイ	110	ND	70	8	2		カガミダイ	ND			7	
	ホウボウ	110	ND	24	26	1		カタクチイワシン	ND			3	
	クロアナゴ	100	100	100	1			カンパチ	ND			1	
	クロウシノンタ	98	20	49	5			ギス	ND			9	
	シログチ	93	ND	23	18			キチジ	ND			2	
	ホシガレイ	92	10	51	2			クロマグロ(メジマグロ)	ND			1	
	カサゴ	92	92	92	1			クロムツ	ND			1	
	ヒガングフ	85	42	64	2			コマサバ	ND			12	
	キアンコウ	78	ND	14	30			シイラ	ND			1	
	ヤナギムシガレイ	64	ND	11	32			シロザケ(筋肉)	ND			7	
	マダイ	62	ND	18	15			ニギス	ND			1	
	マアジ	59	ND	8	30			ヒレグロ	ND			17	
								マサバ	ND			4	
								メダイ	ND			6	
								ニシン	ND			1	
								イズカサゴ	ND			1	
								イシガキダイ	ND			2	
イカ類	ケンサキイカ	ND			6		貝類	アサリ	27	ND	6	15	
	ジンドウイカ	ND			4			ホッキガイ	19	ND	3	19	
	スルメイカ(マイカ)	ND			35			アワビ	9	ND	1	16	
	ヤリイカ	ND			1			イガイ	ND			1	
								イワガキ	ND			1	
タコ類	マダコ	ND			4		その他	エゾボラモドキ	ND			13	
	ミズダコ	ND			38			コタマガイ	ND			3	
	ヤナギダコ	ND			43			シライマキバイ	ND			16	
甲殻類	ガザミ	26	ND	2	14		その他	チヂミエゾボラ	ND			1	
	ヒラツメガニ	17	ND	3	17			ヒメエゾボラ	ND			6	
	イセエビ	ND			2			モスソガイ	ND			1	
	ケガニ	ND			29			アラメ	ND			2	
	ズワイガニ(オス)	ND			1							2	
	ベニズワイガニ	ND			1							1	
	ボタンエビ	ND			1							1	

海産魚介類に関する国の出荷制限等指示

平成24年10月25日現在 40種類

アイナメ	クロダイ	ヌマガレイ	マダラ
アカガレイ	ケムシカジカ	ババガレイ	マツカワ
アカシタビラメ	コモンカスペ	ヒガンフグ	ムシガレイ
イカナゴ(稚魚を除く)	サクラマス	ヒラメ	ムラソイ
イシガレイ	サブロウ	ホウボウ	メイタガレイ
ウスマバル	ショウサイフグ	ホシガレイ	ビノスガイ
ウミタナゴ	シロメバル	ホシザメ	キタムラサキウニ
エゾイソアイナメ(ドンコ)	スケトウダラ	マアナゴ	
キツネメバル	スズキ	マガレイ	
クロウシノシタ	ナガヅカ	マコガレイ	
クロソイ	ニベ	マゴチ	

試験操業について

相馬双葉漁業協同組合では、平成24年6月から試験的な操業を開始しました。対象となっている魚介類は、モニタリング検査で安全が確認されております。

試験操業対象種のモニタリング検査結果(平成24年1月以降)

魚種	最高値	検査回数	内不検出	備考
ミズダコ	ND	89	89	平成24年6月から実施
ヤナギダコ	7	106	105	
シライタマキバイ	ND	35	35	
キチジ	ND	12	12	平成24年9月追加
スルメイカ(マイカ)	ND	43	43	
ヤリイカ	ND	19	19	
ケガニ	ND	54	54	
エゾボラモドキ	ND	21	21	
チヂミエゾボラ	ND	8	8	
ナガバイ	ND	5	5	
ミギガレイ(ニクモチ)	28	117	93	次期対象検討
アオメソ(メヒカリ)	9	43	39	
ズワイガニ	ND	19	19	